

はつよ としょかんで 初読み

きかんぼのちいちゃいもうと その3

ドロシー・エドワーズ さく 渡辺 茂男 やく 福音館書店 933-E

わたしがちい小さかったとき、わたしよりもっとちい小さいもうとがいました。とてもきかんぼのいもうとは、ハリーというちい小さいおとこ男の子とたびたび、としょかんへいくようになりました。おどろいたことにふたりはとしょかんへいくと、こ子ねずみのように、おとなしかったのでした。

(「としょかんの子ねずみ」)

としょかんライオン

ミシェル・ヌードセン さく ケビン・ホークス え
福本 友美子 やく 岩崎書店 E-ホ

あるひ、ライオンがとしょかんにはいつてきました。としょかんちょうのメリウエザーさんは「しずかにするってやくそくできればおはなしのじかんにきていいですよ」といいました。ライオンは、まいにちとしょかんにやってきて、やがていろいろなおてつだいをするようになりました。

図書館ラクダがやってくる 子どもたちに本をとどける世界の活動

マーグリート・ルアーズ 著 斉藤 規 訳 さ・え・ら書房 015-ル

ケニアには、さ砂むらばくの村の子こどもたちに本ほんを運はこぶラクダがいます。タイでは、20頭のゾウが山奥やまおくに住すむ人ひとのために本ほんを運はこびます。フィンランドの島しまに図書館船としょかんせんが停泊ていはくすると、子どもたちは岩いわだらけの海岸かいがんをかけおりて、本ほんを取りとりにきます。世界せかいには、情熱じょうねつをかたむけ、アイデアだを出こして、子どもたちに本ほんをとどける多くおほの人ひとたちがいるのです。

しずかに！ここはどうぶつのとしょかんです

ドン・フリーマン 作 なかがわ ちひろ 訳 BL出版 Eーフ

カーリーナは、どようびのあさとしよかんへ行って、どうぶつがたくさんでくるほんをよみました。「どうぶつたちもほんをよみたいかもしれないな」とかんがえたカーリーナは「どうぶつだけがとしょかんにはいれる、とくべつなひをつくれたら…」とこころのなかでつぶやきます。さいしよにくるのはだれでしょう。

図書館のふしぎな時間

福本 友美子 作 たしろ ちさと 画 玉川大学出版部 Eータ

こさめ 小雨がふっていたある日、ゆりかはおかあさんといっしょに上野の国際子ども図書館へいきました。おかあさんのようじがすむまで「子どものへや」でひとりでほんをよみながらまわっていると、ほんほんのすきまにいた小さな妖精の『すこしはものしり』がいてねいにおじぎをしました。

きょうりゅうが図書館にやってきた

アン・フォーサイス 作 熊谷 鉦司 訳 金の星社 933ーフ

どくしよしゅうかん 読書週間のコンクールで、トムはきょうりゅうのポスターをかきました。図書館のもよおしにでかけたトムがっこうと学校のみんなのまえの前にポスターそっくりのあかんぼうのきょうりゅうがあらわれます。図書館のひとたちがぬいぐるみだと思っただきょうりゅうは、いっさつのほんをとると、ムシャムシャ食べはじめました。

希望の図書館

リサ・クライン・ランサム 作 松浦 直美 訳 ポプラ社 933ーク

とう お父さんとふたりでシカゴにひっこ越してきたばかりのラングストンは、ちゅうがっこうからかえりに道に迷いシカゴ公共図書館と書かれた建物を見つけます。道をきこうと中に入ってめにしたのは、きらきらした天井と、本がたまった棚でした。ラングストンがいつかひょう紙の文字をなぞっていくと、自分の名前が書かれている本を見つけたのです。